

目 次

「稲作の始まりと農村生活」	1	2、石川条里遺跡	27
I 古代の米	10	3、川田条里遺跡	33
1、米の品種	10	V 水田と畠	41
2、遺跡出土の米	11	1、黒井峯遺跡と陸苗代	41
1) 平柴平遺跡の炭化米	11	2、いろいろな畠	42
2) 橋原遺跡の炭化米	11	3、畠作物	44
II 稲作の受容と拡大	13	VI 農 具	45
1、稲情報の伝達	13	1、春の水田	45
1) 粳状圧痕土器	13	2、秋の水田	49
2) 御井戸遺跡が伝える情報	14	VII 石川条里・川田条里遺跡に見る	
2、墓制にみる弥生文化の伝播	15	木製品について	53
3、長野県内最古の農具	16	VIII 稲作と祭り	59
III 水田の立地環境	17	1、弥生時代のまつり	59
1、沖積平野と水田	17	2、古墳時代のまつり	63
2、長野盆地の開田地	18	3、奈良・平安時代のまつり	66
IV 発掘された古代の水田	20	展示資料目録	68
1、更埴条里遺跡	20	引用・参考文献	72

例 言

- 1、本書は第31回特別展「水・稲・祭り—発掘された古代の水田—」の展示解説として作成しました。
- 2、紙面の都合で展示資料の一部しか掲載できませんでした。
- 3、本書の内容は陳列の順序と必ずしも一致していません。
- 4、本特別展を開催するにあたり、ご指導・ご協力いただいた方々は巻末に記しました。お許しいただきたいと思います。
- 5、本書作成にあたり、工楽善通氏（奈良国立文化財研究所飛鳥資料館学芸室長）、臼居直之氏・河西克造氏・市川隆之氏（長野県埋蔵文化財センター調査研究員）より、玉稿を賜りました。深く感謝申し上げます。
- 6、本書を作成するにあたって、多くの書籍から図や表を転載させていただきました。〈文〇〉で出典の文献を番号で記しました。
- 7、本書の執筆・編集は山口明が担当しました。

■表紙の写真は川田条里遺跡の奈良時代水田（長野県埋蔵文化財センター提供）

開催にあたって

私たちの祖先が米づくりを始めたのは2400年も前のことです。以来今日まで日本人は米とつきあうようになり、米は日本文化を形成していく過程で大きな役割を演じてきました。今日の農村に残る農耕習俗の中には、弥生時代以来の思想が守られてきたものがあるかもしれません。

弥生時代以降の稲作技術は大陸からもたらされたものであり、縄文時代の採集経済とは根本的に異なり、一大変革をもたらしました。これによって、社会の様子がすっかりかわり、広い地域が次第に政治的にまとまって、後に国家というものが生まれるのもすべて稲作農耕文化が始まったことによって実現したことと言えます。

長野盆地の沖積地の自然景観は千曲川や犀川による土砂の堆積によって形成されました。現在私たちは流域の自然堤防上に暮らし、その背後の低湿地に水田を営んでいます。この現水田面の下より、近年の調査によって古代の水田が確認されています。弥生時代以降、何度も洪水によって埋没しましたが、その都度復旧を果してきたようです。従って、見なれた水田の風景はいわば古代からの原風景だと言えるでしょう。日本ではいま古来からの水田が埋め立てられ、これまでの歴史と風土につちかわれてきた景観が徐々に姿を消しつつあります。長野盆地の見なれた風景も歴史的な景観として改めて見つめ直すことも必要かと思えます。

石川条里遺跡・更埴条里遺跡・川田条里遺跡より発掘された水田は、土地利用の変遷・水田区画・畦畔の状況・灌漑用水路かんがいなど古代の農業技術の実態を具体的に私たちに伝えてくれました。

今回の展示では、昨今の大きく変化しつつある水田風景や米輸入自由化でゆれる社会状況のもとで、私たちの祖先が営んできた水田の様子やそれともなう祭りまつりなど稲作農耕社会の思想や心情などの原点を見つめ直してみたいと思います。

開催にあたり、貴重な資料の提供など多くの方々にご指導ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

長野市立博物館長